



間違いだらけの ビジネス英語勉強法

アハ！モーメンツ
Hiroshi Motai



まえがき

●本レポートの位置づけ

- 本レポートは、アハ！モーメンツ（代表：母袋博嗣）が提供する各種商品やサービスの根幹をなす基本的な考え方（つまり、日本人のビジネス英語の勉強とはどのようにあるべきか・・・）を述べたものです。
- 「ビジネス英語」と言っても、求められる局面や深さは千差万別です。ここでは、**非定型な内容のコミュニケーションを英語で行う必要のある場合を想定しています。**
 - 調整、交渉、エスカレーションなどは、「非定型コミュニケーション」の例です。
 - 基礎力が身につけていないと直ぐに行き詰ってしまうのが、「非定型コミュニケーション」の特徴です。
 - また、時差が絡む場合も多く、Eメールが大きな比重を占めるでしょう。
- アハ！モーメンツが発行するメールマガジン（メルマガ）“【3分間自己投資】ビジネス英語の勉強は、実は楽しい！”に読者登録されますと、最初に、ご挨拶（その1）～（その5）として、本レポートとほぼ同じ内容が配信されます。
 - メルマガURL：<http://bit.ly/1JFeufO>

●著作権について

- 本レポートの著作権は、母袋博嗣に属します。

目次

- 「英語がペラペラ」に潜む罪
- 重視すべき言語能力
- 最初は諦めるべきもの
- ビジネス英語を勉強する上で、圧倒的に重要なこと
- 「パラシュート勉強法」

- 参考資料
 - 日本IBM(株)在職中の活動

「英語がペラペラ」に潜む罪

- 重視すべき言語能力に対する誤解を助長
 - 聞くこと
 - 話すこと
 - 読むこと
 - 書くこと
- 最初は諦めるべきものに対する誤解を助長
 - カジュアル（非正式）な英語
 - フォーマル（正式）な英語

重視すべき言語能力

- 4つの基本言語能力
 - 聞くこと
 - 話すこと (←「ペラペラ」から連想される)
 - 読むこと
 - 書くこと
- 「聞くこと」 > 「話すこと」
 - ネイティブとの実際の会話では、相手の言ったことを反復することで進行することが多いし、不自然でもない。
 - つまり、実際には、「聞けると、話せる」という状況が多い。
- 「書くこと」 > 「話すこと」 (「正しさ」の観点で)
 - 話し言葉の場合、仮に正確性に欠けても、ネイティブが表現を手助けしたり聞き返して確認するなどすることで、目的が達せられることが多い。
 - 書き言葉の場合、様相は一変する。
 - 教養レベルがあらわになる。また、Eメールを含め、記録に残ることが多い。
 - 誰も、誤字や文法間違い満載の契約書にサインなどしない。

最初は諦めるべきもの

- 「ペラペラ」は、映画やTVドラマを不自由なく聞き取れることを連想させる。これらは、カジュアル（非正式）な英語と言える。
- 一方、ビジネス英語で実際に必要なのは、フォーマル（正式）な英語であることが殆ど。
 - ニュース
 - 演説
 - 発表
 - 朗読・・・など
- 外国語として学習する観点では、「カジュアル（非正式）な英語」と「フォーマル（正式）な英語」の差は、あまりに大きい。
- 従って、よほどの事情がない限り、少なくとも最初は、映画やTVドラマなどを教材にすべきでない。

ビジネス英語を勉強する上で、 圧倒的に重要なこと

- 誰がなんと言おうが、「**長期間続けられること**」が肝要。特に、ビジネス英語で大切な「正しく書く」は短期間での習得は不可能。
- そのために必要なのは、
 - 興味が続く
 - モチベーションが維持できる
- それを踏まえ、お勧めする勉強法は、
 - 学生に向けては、「教科書丸暗記法」(※)
 - 社会人に向けては、「パラシュート勉強法」

(※) 本レポートの対象外です。

パラシュート勉強法

- 野口悠紀雄氏が、『「超」勉強法』の中で、「数学の勉強法」として提唱したもの。
 - 基礎からコツコツと積み上げるのではなく、必要なものから始め、必要なものを勉強するという発想に立ったもの。
- アハ！モーメンツでは、社会人の英語勉強法としても最適なものと考えています。特徴としては、
 - 教材は、英語学習の目的で作られた参考書は用いず、以下を採用。
 - 業務に直結する読み物（専門書籍、製品解説書、発表資料などで、即効性がある。）
 - 一般のビジネス書籍（暗誦に適した文を多く含み、音源が手に入るものが殆ど。）
 - 意志の力だけに頼らない仕組みが望ましい。
 - 例）職場の有志を募って、勉強会を実施
 - ただし、最初は、適切な指導者が必要。
 - 文法を含む基礎を、必要になる都度、必要な深さで説明。（※）
 - 実践経験の長い指導者の場合、実際のビジネスシーンでの必要性などの観点でのアドバイスも可能。

（※）この役目をネイティブ教師に期待するのは難しい。

- 英語の習得プロセスを共有していないため、日本人にとってのハードルが何処にあるかを理解していない。

参考資料： 日本IBM（株） 在職中の活動

- Inside OS2
 - 輪読会10名の参加者、50回開催
- Inside Notes
 - 輪読会15名程度の参加者、60回開催
- The Singularity Is Near
 - 輪読会同上、60回開催
- Operating System Fundamentals
 - 輪読会同上、40回開催
- TOEIC過去問題集（Part 5）
 - 解説と暗誦が中心延べ3人を対象、100回
- Eat That Frog!
 - 解説と暗誦が中心延べ6人を対象、100回



Thank
YOU